

平成20年度

「地域活性化総合実習」 活動レポート

平成19年度採択 現代GP 文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム
「活力ある地域社会を創る女性リーダーの養成」

Project 1



「親子で作ろうベジタブル！」

- ❁ 地域社会のリーダーとなり、いきいきと輝く女性を目指して。
- ❁ 平成20年度 総合実習紹介
- ❁ 総合実習の活動を通して出会った新しい自分。
- ❁ 社会で生きるチカラとは？
地域で、社会で輝くための条件。
- ❁ これからの総合実習の活動に向けて。
ー平成20年度の活動の成果と今後の課題ー

神戸女学院大学 人間科学部

Project 2



「早めのメタボ予防大作戦!!」

Project 3

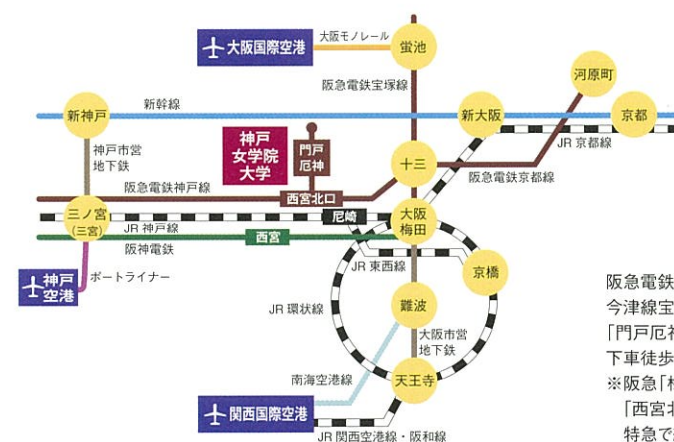


「みんなでeco クッキング！」

よりよい地域社会を目指して...



Access



阪急電鉄神戸線「西宮北口」で
今津線宝塚行に乗り換え
「門戸厄神(もんどやくじん)」
下車徒歩約10分。
※阪急「梅田」・「三宮」から
「西宮北口」までの所要時間は
特急で約15分。

神戸女学院大学

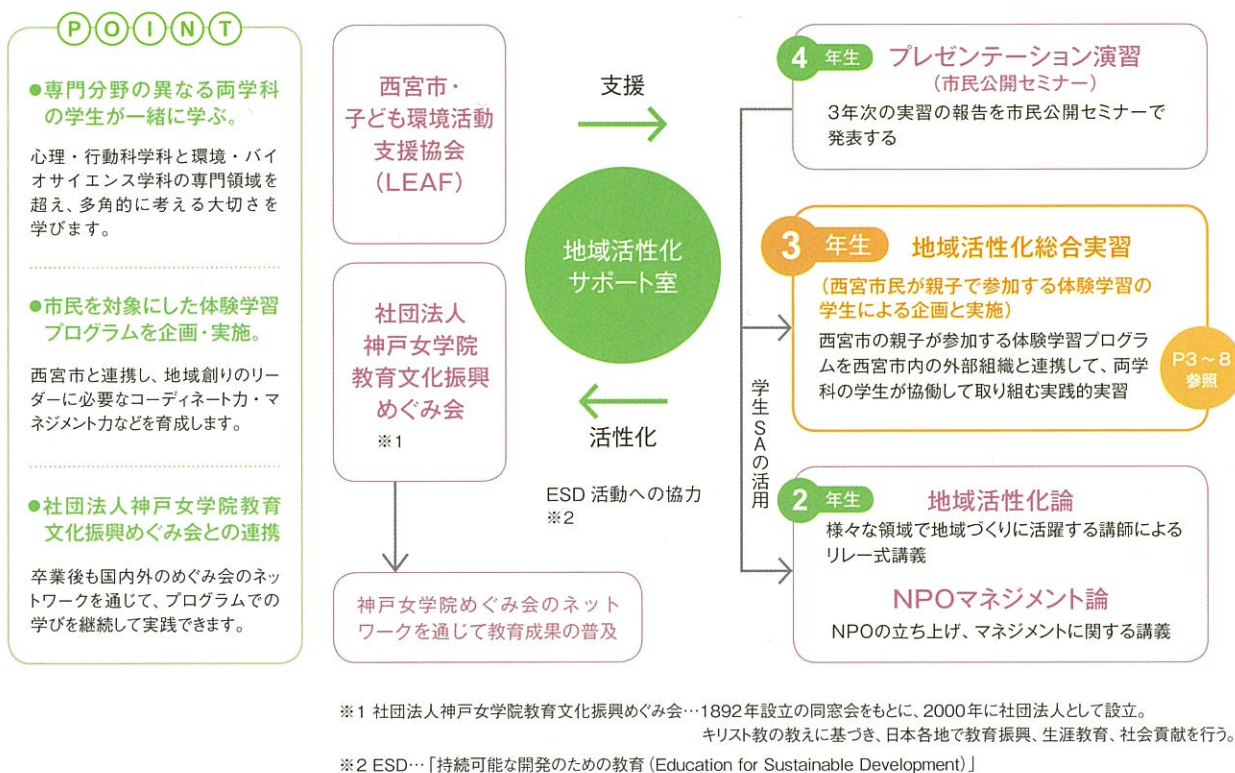
*連絡先 〒662-8505 兵庫県西宮市岡田山 4-1
神戸女学院大学 人間科学部 GP 推進室 TEL/FAX 0798-51-8591
*E-mail jinkagp@mail.kobe-c.ac.jp *HP <http://humangp.kobe-c.ac.jp/>



学生が自ら企画し、運営する総合実習。

西宮市・NPO法人・めぐみ会と連携した取組 —地域創りリーダー養成コース—

取組図



受講の流れ

2年生後期から始まり、必修科目の10単位を含む24単位以上を取得すると修了書が交付されます。

4年生
研究をさらに深め、その成果を発表する場としてプレゼンテーション演習を開講。ホームページのコンテンツ作成や3年次で行った地域活性化総合実習の報告を西宮市民に向けて行います。また4年次ではプログラムのステューデントアシスタント (SA) としても活躍。2、3年生の後輩へアドバイスをすることで、成果をさらに深めます。

3年生
市や支援団体と連携し、地域活性化総合実習に取り組めます。「西宮市民が親子で参加する体験学習プログラム」の企画や連携先との打ち合わせを学生自身が行い、イベントを実施。通年の教育活動として講義時間にとられず展開します。↓詳しくはP3~8へ。



ひょうご・こども環境会議の「エコメッセージフラッグづくり」や農地体験に参加し、イベント運営のノウハウを修得。



2年生
地域活性化活動の現状と問題点を知るために講義を受講。「地域活性化論」では行政・企業などの方を招いて実際の活動状況を学び、現場見学などを実施。各自で課題を見つけ、3年次の活動プランを作成します。「NPOマネジメント論」では、NPO法人LEAFの事務局長を非常勤講師に招き、NPO法人の仕組みや運営方法、活動上の留意点を学びます。

地域社会のリーダーとなり、いきいきと輝く女性を目指して。



地域が抱える問題と

積極的に関わる人材を育てたい。

現代GP取組責任者 寺嶋 正明 教授

2つの学科で培った西宮市との連携を学部単位の活動へ。

現在、各地の地域社会は、自然環境の保全や子育て支援、食の安全性や老人介護など、さまざまな問題を抱えています。解決のために今強く求められているのが、地域創りを推進する専門知識とスキルを持ち合わせたリーダーです。

そもそも、本学が位置する西宮市は、わが国で初めて「環境学習都市宣言」を行うなど、地域の環境問題に積極的に取り組んでいます。人間科学部は以前からこれらの活動を支援し、95年の阪神大震災後の復興事業に協力して以来、「にしのみやパートナーシップ」に認定され、緊密な関係を培ってきました。学科単位で行ってきたこれらの活動を、学部ある地域社会を創る女性リーダーの養成です。プログラムのねらいは、地域活性化に向けてリーダーシップを発揮できる人材の育成。これまでの実績と信頼関係を基に、西宮市・NPO法人・子ども環境活動支援協会 (LEAF)・神戸女学院教育文化振興めぐみ会と連携して展開しています。

広く深く学内外と協働し、人づくりをサポートする総合実習。

プログラムでは3年次に総合実習を実施。地域社会に向けたイベントを学生自身が企画・運営することが特長です。受講した学生が地域に根ざした課題

を見つけ、幅広い視野から問題解決を考える能力や、多くの人と協働して取り組む能力、地域のリーダー的役割を果たす能力を身につける、実践的学習のステップとなっています。

企画内容によって、西宮市やNPO法人LEAF、神戸女学院教育文化振興めぐみ会と協働でイベントを運営。学外から社会的視点を取り入れ、地域社会のリーダーに必要な資質を育成します。

また、大学院でも「地域実践活動を創造できる臨床心理士の養成」「環境と健康のために行動する女性科学者養成」のプログラムを文部科学省の大学院GPとして開講。進学すればさらに高い専門性を身につけられます。

社会で必要な力を身につけ、継続的に活動を。

もともと、受講した学生全員を地域のリーダーに、とは望みません。しかし、総合実習を含む3年間のプログラムを通して、「与えられた仕事を責任を持って果たす」「リーダーシップがとれる」など、社会のどんな場面でも必要とされる能力を身につけてほしいと思います。

また、卒業後もめぐみ会のネットワークを通じて活動を継続することが出来ます。国内のみならず海外の支部も通じて、西宮市以外でも地域や社会でリーダーとして活躍してくれる女性が誕生することを期待しています。

人間科学部教員 (カッコ内は教育・研究分野) 2009年1月現在

〈心理・行動科学科〉

森永 康子 教授 (生涯発達心理学) / 三浦 欽也 准教授 (認知情報処理) / 山 祐嗣 教授 (認知心理学)
出口 弘 教授 (マルチメディア) / 田島 孝一 准教授 (音楽文化) / 國吉 知子 教授 (家族臨床心理学)
山口 素子 教授 (深層心理学) / 水田 一郎 教授 (精神医学) / 石谷 真一 准教授 (発達臨床心理学)
小林 哲郎 教授 (学校臨床心理学) / 小林 知博 准教授 (社会心理学) / 永本 誠一 准教授 (地域健康学)

〈環境・バイオサイエンス学科〉

川合 真一郎 教授 (生態毒性学) / 山本 義和 教授 (水圏環境科学) / 遠藤 知二 教授 (動物生態学)
野寄 玲児 教授 (植物生態学) / 西田 昌司 教授 (健康医学) / 塩見 尚史 教授 (応用生命科学)
高岡 素子 准教授 (食品基礎科学) / 寺嶋 正明 教授 (食品分子機能科学)



寺嶋 正明 教授

人間科学部
環境・バイオサイエンス学科
食品分子機能科学

現代GP (現代的教育ニーズ取組支援プログラム)

社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学などから応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクトを選定し、文部科学省が財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするもの。

平成20年度
総合実習紹介Project no.1
親子で作ろう
ベジタブル！野菜を育てて食物の自然な姿や尊さを知ろう！
親子の絆も深まる全4回の農作業イベント。

DATA

・実施日 2008.08.23 / 09.23 / 10.18 / 11.22
 ・企画・活動期間 2008.04～12
 ・学生メンバー数 11名
 ・実施場所 甲山農地(兵庫県西宮市) ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)
 ・参加人数 11家族36名 (子ども17・大人19)

STAFF

〈学生〉 友田 麻子 / 中田 有美 / 井手 恵 / 久世 竜さん / 小川 哲生さん / 坂本 美菜子 / 瀬尾 磨諭 / 東郷 菜穂子 / 農地ボランティアの方々
 橋田 佳奈 / 畑田 真紀子 / 森元 智子 / 安本 有希 / 山口 真里奈

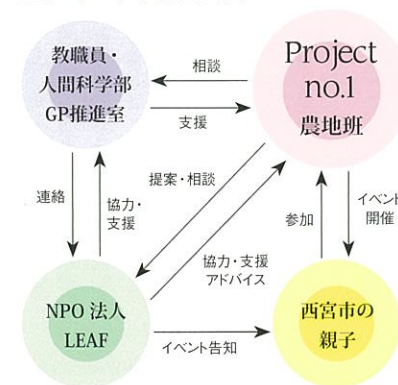
プロジェクトリーダー
人間科学部 3年生
友田 麻子さん

都市化・核家族化が進み、子どもたちはスーパーにある野菜の姿しか知らないのではないのか。そんな問題意識から、私たちは農地で野菜を育て収穫するイベントを企画しました。食育のことは、命や育てた労力をいただくこと。子どもたちに食べ物の大切さをもっと知ってもらいたい。それが、命や地球を大切にすることに繋がると考えたのです。また、共同での農作業を通して他人と接したり、親子の絆が深まることも重視しました。

イベントは全4回で、種まきから収穫までを体験。野菜の育て方や旬、共同作業のルール等を学び、植物を育てる楽しさを感じてもらいました。また、クイズなどのレクチャーで知識を深め、昼食には採れたて野菜を味わいました。

運営はNPO法人LEAFにご協力いた

■プロジェクト取り組み図



だき、農地を借りて、共同ミーティングを実施。アドバイスを元にメンバー全員でイベント内容を作り込みました。また、メンバー間ではメーリングリストで常に情報を共有。成功の鍵は、協力先とのコミュニケーションとチームの団結力だと感じています。

企画～準備
2008年4月～8月

さあ水やるソ！

多数決は一度もナシ！
話し続けて全員納得の企画づくり。

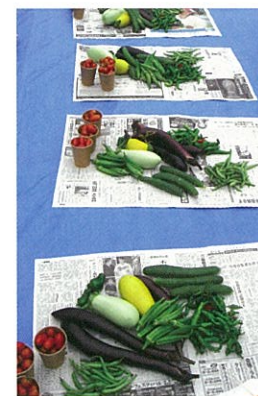
08年4月以来、毎週ミーティングを開催。このチームのテーマだった「農地」「西宮市の親子」で意見が一致するまで話し合い、議論はいつも白熱。互いを認め、誰もが話せる環境ができました。4月下旬に野菜を植え、6月にはLEAFと連携して参加者を募集。



一つひとつの意見を全員でとことん話し合い！

イベント初回はなんと雨！
大きな声で場を盛り上げて。

雨天のため、11家族中6家族のみ参加。場を盛り上げようと、レクチャーではマイクを使わず、地声で司会進行。台本を準備した甲斐があり、楽しく過ごしてもらえました。好評だったトマト飴も、実は練習では失敗し、準備や練習の大切さを強く実感。

採れたトマトで作った
「トマトあめ」

「みなさん、盛り上がっていきましょう！」



最後に思い出を観察日記にまとめました。

LEAF さんのアドバイス

「一番考えるのは参加者のことだから」
 調理場でトラブルが発生し、メンバーが状況を見失いかけたときにいただいた一言。タイムキーパー役を設ける、周りを見るなど、その後イベントの進め方を改善する重要なきっかけになりました。

「チームに団結力があるね」
 4回目のイベント終了後に褒めていただき、自信になっています。

晴天

第2回
2008年9月23日(火・祝)

内容：冬物根菜の間引き・葉物冬野菜の種まき・冬野菜レクチャー(約40分)・稲刈り
 参加人数：11家族33名(子ども17・大人16)



初稲刈り！ドキドキ...

「やりたい！」の声から稲刈りを追加！
親子に伝わった食物のありがたみ。

初回のアンケートに稲刈りの要望が湧出し、イベント趣旨との関係を全員で検討。参加者の満足感を重視して急遽メニューへ追加しました。作業後は畑で採れた茄子炒めと南瓜の煮物の昼食。エコを意識し、マイ箸&マイカップ持参をルールに。



葉物冬野菜の種をまきました。

良いものを残して
間引きしました！

参加者の声

- 子どもが稲の実物を手にしたのはこの日が初めてでした。食卓のごはんを見る目も変わってくると思います。
- 親子とも初稲刈りができ、大変貴重な体験でした。あの「ぬかるみ」は気持ちよかったです。



マイ箸&マイカップで「いただきます！」

晴天

第4回
2008年11月22日(土)

内容：冬物根菜の収穫・葉物冬野菜の収穫・総まとめ
 参加人数：9家族31名(子ども15・大人16)

タイムキーパーが活躍して大成功。
参加者から「次回もぜひ！」の声も多数。

第1回に種をまいた人参や大根などをついに収穫。これまでの反省から役割分担を見直し、初めてイベントがスムーズに進行。参加者ともすっかり仲良くなり、毎回記録していた観察日記をまとめて、後日全員にプレゼントしました。

サツマイモ
大収穫！

芋掘りって意外と大変！



大きなお芋が穫れましたー！

参加者の声

- 野菜っておもしろい。地上と土の中が全く違い、それぞれ立派に育ってる！また、お茶碗一杯のごはんが出来るまでに多くの工程と愛情が詰まっておいしくなるんだと改めて感じました。
- レクチャーでマメ知識を知り、家族の中の会話も増えました。



昔ながらの脱穀方法を体験。



今日は何書？



調理場のトラブルもなく大成功！



イベントを振り返って

- 大切なのは全体への配慮と個人への配慮。適切な関わり方が参加者の満足に繋がると感じました。
- 自分の得意なことを把握し、他のスタッフと役割を分担して助け合うことの大切さを実感。
- イベントは多くのの方々の協力が必要で、言葉でのコミュニケーションができて初めて実現できることを学びました。

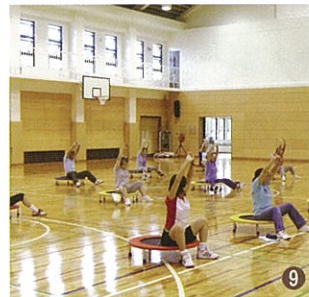
素直な観察日記が
できました！こんなに大きく
育ったよ！



井上教授よりごあいさつ。



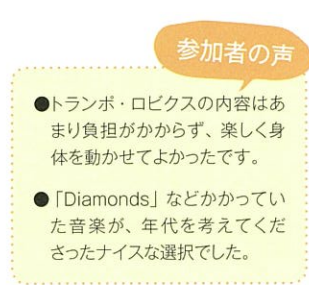
いよいよメインの運動へ！



音楽に合わせて筋肉をほぐしました。



ユニフォームに着替えてやる気十分！



最後にクールダウン。



最後にクールダウン。

**自分の右手は相手の左手？
相手目線での説明の難しさを実感！**

夏休み中に練習したトランポ・ロビクスをほぼ1対1でレクチャー。いざ説明となると、左右逆に伝えることや、説明しながら動くことが予想以上に難しく、充分な練習が必要だと強く実感。一方、参加者には好評で、後日ミニトランポリンを購入された方もおられました。



体の隅々までストレッチします。



ほぼマンツーマンのレクチャーです。



まずはウォーミングアップ。



ウォーキングしながらアレンジを追加！

第2回
2008年9月27日(土)

内容：体脂肪、ウエスト、BMI、筋肉量、水分量、生活チェックなどの測定・トランポ・ロビクスでの運動・懇親会
参加人数：6名



プロジェクトリーダー
人間科学部 3年生
小西 くみこさん



イベントのコンセプトは、地域の健全な発展に貢献すること。では「地域活性化」とは何か―私たちはまずそこから考え始めました。答えを探る中見えてきたのは、地域が活性化するためには住民が身体も心も元気でいることが大事、ということ。そこで、家族の健康を担う女性に意識を高めてもらい、地域の発展の土台づくりを目指しました。

イベントは、メンバーが協力し互いの強みを出せるよう企画。メタボ予防の講義と運動の2回のイベントに、終了後も2ヶ月間継続してサポートを実施。授業でも採用しているトランポ・ロビクスを取り入れ、女性を対象とするなど、女学院カラーにもこだわりました。

講義や運動は教授にご参加いただき、知識不足を補いながらの運営。メンバーの努力と周囲の方のご協力があつたからこそ、成し遂げられたイベントです。

■プロジェクト取り組み図



参加者は健康で元気な方ばかり。
予想以上に意識が高く、鋭い質問が続出！

参加者に自分の身体の状態を知ってもらい、基礎知識と対策を講義。参加者の満足＝説得力を考え、高岡准教授に担当していただきました。意外にも細くて健康に気を遣っている方が多く、何をすればいいのか…と不安になったのも束の間。熱心に質問されて答えられず、後日手紙で対応したケースもありました。



参加者の声

- 具体的なお話が多く、私にもできるかなと思いました。立派な機械で身体測定してもらい、今後の参考になりました。
- ダイアリーが付いていてよかった。資料も詳しく書いてあり、役に立つと思います。

第1回
2008年9月13日(土)

内容：体脂肪、ウエスト、BMI、筋肉量、水分量、生活チェックなどの測定・メタボの基礎知識と対策の講座・レコーディングダイエットのワークショップ
参加人数：8名



講義後のワークショップでは、各自で目標を決めて「達成宣言」を行いました！

知れば知るほど問題多発！
土壇場で発揮された底力。

企画～準備
2008年4月～9月

4月からメタボ改善をテーマにミーティングを始めたものの、企画途中でメタボリックシンドロームが深刻な病気であり、注意深く取りかからなければならないことを実感。テーマを「メタボ予防」に設定し、内容を固めて夏頃から本格的に始動。限られた時間の中、講義班と運動班で役割分担して、準備を進めました。近所のスーパーや新聞にも広告を出し、地元の方への告知も同時に実施。



病気の解説や運動方法、食事レシピ、ダイエットダイアリーなど20ページ以上の資料を作成しました。

イベント終了後

ダイエットダイアリーの分析。



2ヶ月間ダイエットダイアリーを通してサポートを継続。

参加者とペアになり、2週間ごとにダイエットダイアリーの分析や食生活のアドバイス、質問への回答、ダイエット情報の提供などを実施。最後には、交流が終わることを寂しそうにされていたり、食事への意識が変わったとの声も多く、やりがいを感じる結果となりました。

イベントを振り返って

- 一つのイベントには多くの人が関わることを知りました。周囲の人たちに支えられ、感謝の気持ちでいっぱいでした。
- 喜んでくださる参加者を見て、これからもっと人の役に立ちたいと思うようになりました。
- 言葉遣いを気にするようになり、人前で話すことに自信がつかえました。



運動後の懇親会で交流がぐっと深まりました。

参加者や井上教授および関係者が集まって懇親会を開催。おからクッキーなどヘルシーなおやつを用意し、健康に関する質問から女学院の印象についてまで、和気あいあいと盛り上がりしました。「また参加したい」との声もいただき、確かな手応えを感じたひととき。



地元の畑で野菜が穫れることを体感。

はしゃぐ子、掘る子、優しい子… 子どもたちの個性あふれる芋掘りに!

芋掘りが始めると、虫が出て大騒ぎしたりケンカしたり、リハーサルではなかった事態が続出。一方、スコップの共有や場所の譲り合いなど子ども同士の思いやりには感動。どう接したらいいのか戸惑い、また刺激を受けながら、交流を深めました。

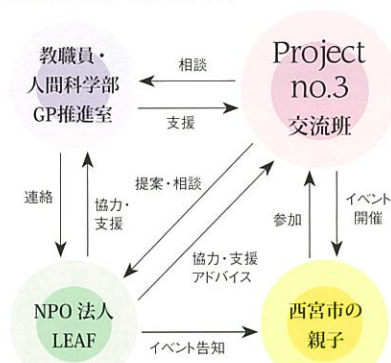
参加者の声

- さつまいものツルが食べられるなんて知りませんでした!久しぶりの芋掘りもおもしろかったです。
- 初めてわかったことがたくさんありました。また家族と一緒にさつまいもの料理を作りたいです。
- 芋や虫が元気だったので自然が生きているなと思いました。
- 班で料理したり、大学生の人達ともたくさんお話ができて楽しかった。

イベントを振り返って

- 困難が生じて準備の段階から多くの人の協力が得られたからこそイベントが成立したと感じました。
- イベントを企画する際は、スタッフ一同が目的意識を明確に揃えることがとても大切でした。
- 企画側の経験がなく、講義で学んでいたのと実際は大変さが違い、何事も経験が必要だと身にしみて感じました。

■プロジェクト取り組み図



しい物がすぐ手に入るため、生産者や自然との交流が薄れていることを知り、意識を変えるきっかけづくりが必要だと感じたのです。

イベントの軸としたのは「クッキング」。「地産地消」を実践し、学生と交流しながら、地元の畑で育てられた野菜を収穫して調理。ゴミを出さない調理方法を通して、身近な環境問題を伝えました。イベント自体は一度きりのため、参加者にはレシポを配布。当日はイベントで気づいたecoのポイントや、今後家でもできる活動を自分で考え、しおりに記入してもらいました。

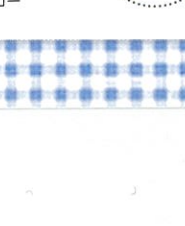
実はコンセプトがまとまらず、途中で企画をすべて白紙にしたことも。そんな中、LEAFの方から「地産地消」のキーワードをいただくなど、メンバーだけでは考えつかないことも、多くの方と協力すると達成できることを今回よりも学びました。

感謝と「もったいない」の気持ちを込めた料理。

作りやすいメニューで、芋のツルまで調理し、ムダを出さない調理方法を体験。「こんな食べられるん?」と最初は半信半疑だった子どもたちから、いつの間にか「もったいない」という言葉が出てくるように。身近なクッキングを通してecoの意識が芽生えました。



「おいしそうな形にするのは難しいな」



「地産地消」とecoを体感しながらいただきました!

マイ茶碗・マイ箸・マイカップを持参してもらい、eco昼食。一番人気は芋まんじゅう。芋のツルも好評でした。食後は「地産地消」のレクチャーを実施。思いがけず時間が余り、アドリブでゲーム大会も。「家でも作りたい」の声に今後意識が変わっていくことを願いつつ解散。



「いっせーの一で!」

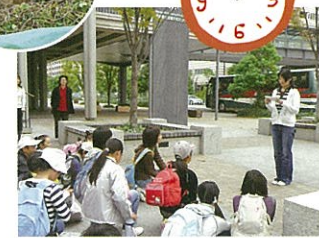
予定通りに出発進行! ツルを退けて芋掘りスタート!

スムーズに全員集合し、スケジュール通りの始まり。甲山農地で子ども4人に学生1人がグループとなり、生い茂ったツルを整理。子どもたちの嬉しそうな笑顔にさっそく「やってよかった」との思いがこみ上げました。



点呼して参加者全員を確認。

芋掘り体験
2008年11月3日(月)
10:00~11:00
内容:芋掘り・クイズ・eco
クッキング
参加人数:小学4~6年生
18名(見学者2名)



企画~準備 2008年4月~11月



目的よりも内容優先… コンセプトがなく一度白紙に!

ミーティングでは、メンバーの目的意識が一致せず、企画が難航。「本当に伝えたいこと」を全員で見直し、コンセプトを組み立て直しました。LEAFを通じて畑をお借りし、6月に芋を植え、10月に収穫。リハーサルを2度行い、その後は役割分担が進み、チームの一体感が急増!

eco クッキングのしおりを作成。

Project no.3 みんなでeco クッキング!

子どもたちが地域との繋がりを感じ、環境問題を考えるきっかけづくり!



プロジェクトリーダー
人間科学部 3年生
植田 久珠子さん

DATA

- ・実施日 2008.11.03
- ・実施場所 芋掘り:甲山農地(兵庫県西宮市) 調理:西宮市立中央公民館6階
- ・参加人数 小学4~6年生18名と見学者2名
- ・企画・活動期間 2008.04~11
- ・学生メンバー数 10名
- ・協力先 NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)

STAFF

- (学生) 植田 久珠子/伊賀 梓/池本 成美/石田 未来/磯部 泰菜/片山 翠/曾我部 智子/寺坂 悠/畑 冨子/別枝 菜緒
- (こども環境活動支援協会(LEAF)) 久世 竜さん/小川 哲生さん/農地ボランティアの方々



調理方法や注意点を聞く時はみんな真剣。



うわっ!間違えた?

eco クッキング in プレラ西宮

11:30~14:00
メニュー:芋ごはん・サツマイモ汁・ホイコーロー・芋まんじゅう

バスの中で芋クイズ! 知識を深めていざ調理場へ。

畑から調理場まで移動するバスの中、芋に関するクイズを実施。子ども同士がペアになり協力して回答するため、初対面でも仲良しに。調理場では、先に来て下準備をしていたメンバーが出迎え、注意事項を説明。安全性を考え、硬い野菜などはメンバーが用意しました。

「みんなでecoクッキング!」 Project no.3



はた さえこ
畑 冴子 さん
人間科学部 3年生



「立場や状況を考え、的確に行動する力を身に付けました。」

私がこのプログラムを受講したのは、イベントの企画を通して、自分自身を成長させたかったため。持ち前の行動力をグループ内でも活かせるよう、特にチームワークを身に付けたいと考えていました。受講してまず感じたのは、これまで知らなかった仕事や世界を学ぶ楽しさ。様々な分野で活躍中の方のお話を聞いたり、ミーティングで意見を共有でき、価値観が広がりました。一方、イベントの企画では、参加者をどれだけ満足させられるか、どう関わるべきなのか、と悩むことが多々ありました。このとき、

物事の全体像を把握し、複数の視点から見ることの大切さを実感。相手の目線や違う角度から考えることを心がけるようになりました。視野が広がったことで、自分が置かれている立場や周囲の状況からやるべきことを判断し、よりの確に動けるように。活発なだけでなく、チームにきちんと貢献できる行動力が身に付きました。新しい世界を知り、仲間と協働でイベントを実現するこのプログラム。社会的な視点から長所を伸ばす大切な経験になりました。

My work

主に調理分野を担当。メニューを決め、リハサルをしてタイムスケジュールを把握。また食材や地産地消についてのゲームやレクチャーを準備し、イベント当日は調理の進行を管理。



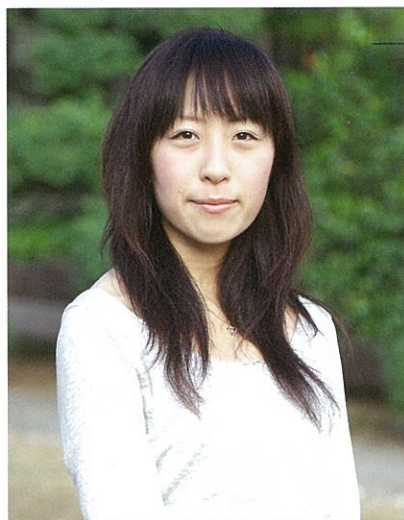
「ecoクッキング」の意味を伝え、調理方法と注意点を子どもたちに説明。調理は予想よりかなりスムーズに進み、大成功。

メニューは子どもたちが手軽に家でも作れるものをインターネットや本で調べ、アレンジしました。



調理や〇×クイズを通じ、子どもたちに楽しく環境問題を伝えられてよかったです。

「早めのメタボ予防大作戦!!」



やすひろ こねみ
安廣 琴恵 さん
人間科学部 3年生

地域活性化を図るこのプログラムの魅力は、「参加者」ではなく「企画者」として参加できること。私は元々積極的に物事を進める方ではなかったため、客観的に物事を捉え

た上で自分の意見を持ち、主体的に行動していけるようになったと思うことができました。3年次のイベント運営の中では、各内部機関へのアポ取りや調整などを経験できたこと



で社会的マナーが身に付きました。一方で、コンセプト設計や告知等でつまずきも多く、イベントを企画・実施することの難しさや、責任を背負うことの厳しさを実感しました。ただ、一つ確実に言えることがあります。それは、意見を話し合っイベントを作り上げ、「0」から「1」へ進むことができたということ。何も

しなければ何も変わりません。考えているだけでも何も進みません。これまで私は初めの一步をなかなか踏み出せずにいましたが、まず行動してみることこそ自分を成長させるための近道だと、このイベントを通して強く感じました。今の私にとって、この体験は何事にも代えがたい貴重なものとなっています。

ミーティングの進行管理やイベントでの腹囲の測定、講義の司会を担当。また、測定にあたり、体育研究室への連絡や測定場所の確保、調整も行いました。



トランポ・ロピクスを夏休みに猛練習。チームで助け合って仕上げていきました。

イベントで最も情熱を注いだのは、参加者とのコミュニケーションでした。

Project no.2

「イベントの運営自体が、自分を変える大きな第一歩に。」

やすひろ こねみ
安廣 琴恵 さん
人間科学部 3年生

地域活性化を図るこのプログラムの魅力は、「参加者」ではなく「企画者」として参加できること。私は元々積極的に物事を進める方ではなかったため、客観的に物事を捉え

た上で自分の意見を持ち、主体的に行動していけるようになったと思うことができました。3年次のイベント運営の中では、各内部機関へのアポ取りや調整などを経験できたこと



My work



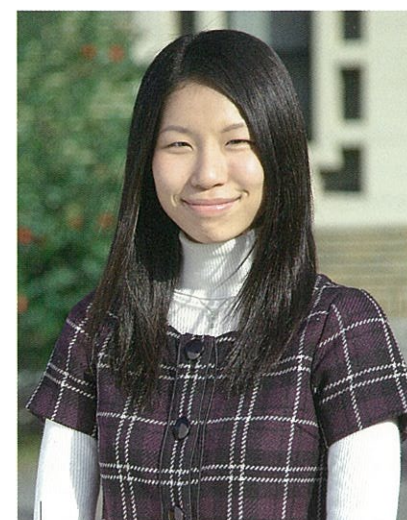
参加者用ダイエットダイアリーを手作りして好評!お手紙付きで結果が届き嬉しかったです!



総合実習の活動を通して 出会った新しい自分。

受け身ではなく主導側の目線から考え、行動することを学ぶ現代GPプログラム。
周りとの関係を見直し、一人ひとりが自分に必要な能力を身につけて大きく成長しています。

「親子で作ろうベジタブル!」 Project no.1



やまぐち まりな
山口 真里奈 さん
人間科学部 3年生

「主体的に動くことができる人になりたい」。その想いから、「参加型」の授業形式に興味を持ち、プログラムを受講しました。

イベント運営を通して最も成長したのは、納得した上で自分の考えを全体の意向に合わせられるようになったこと。話し合いが煮詰まった時、いつも聞き手に回るメンバーに意見を求めると、新たな視点加わって議論がより充実したことがきっかけでした。それ以後、話し合いで多くの考え方に触れる中、自然と



相手の意見を受け入れられるように。聞き手側だったメンバーも活発に発言するようになり、チーム全員で成長している実感が得られました。本音をぶつけ、認め合える仲間と出会えたことで、自分の枠を広げられたと思います。また、イベントでは、レクリエーション等の際に、相手のバックグラウンドを理解する必要性と、相手に合わせた話し方やレジュメの作成方法を学習。スキルと人間性の両方から、主体となるための成長ができ、受講して良かったと感じています。

My work



自分たちも楽しみ、いいイベントにしよう、という気持ちで実施。野菜の収穫には毎回感動!



イベントは、苦労した分だけ必ず達成感が得られ、とにかくやりがいがありました!

仲間の協力を得ることの必要性とともに、自分がやるべきポジションを知りました。



社会で生きるチカラとは？

地域で、社会で輝くための条件。

大学卒業後、総合実習で学んだことはどのように活かせるのでしょうか。
社会で活躍するために必要な心がけを
様々な職場で働く社会人の先輩に教えていただきました。

総合実習にご協力いただいた
NPO法人こども環境活動支援協会 (LEAF)
事務局次長



社会で輝くには？

- 相手の立場を考える
- 相手の求めている答えを探る
- 場に相応しい雰囲気を考える

ながて さとみ
長手 聖美さん

1992年から西宮市の子ども向け環境学習事業で活動し、その後LEAF設立に参画。1995年から環境省「こどもエコクラブ」会員手帳の作成や委員として活躍。

現代GPの運営で
連携していただいた
西宮市職員



社会で輝くには？

- 幅広い視野で物事を捉える
- 周囲への目配り・気配り・心配り
- 新しい発想でチャレンジする

おおなり こうき
大成 広毅さん

2000年西宮市役所に入庁。環境部環境監視センターを経て、環境緑化部環境都市推進グループへ。2008年より人事部人事課に配属。

人と人をつなぐための「バランス感覚」を持つ。

LEAFは、環境活動を通して人をつなぐNPO法人。私は、1998年の団体立ち上げから携わり、総務・会計・事業とあらゆる部署を経験し、今は内部マネジメントも行っています。私の主なミッションは、「人と人をつなぐ」こと。立場世代の違う主体と主体、課題と課題をつなぐ場合、両者の弱みと強みを客観的に把握し、尊重することが重要です。しかし、それ以上に求められるのが、バランス感覚。打ち合わせでは、前に出すぎず引きすぎないように気をつけ、常に黒子の姿勢に。バランス良く関わることで、主体と主体が気持ちよくお見合いできるように努めています。



秋にはどんぐりや木の枝を使った工作イベントを開催。受付にはいつも子どもたちの手作り作品を並べています。

神戸女学院大学の現代GPプログラムでは、学生の皆さんが積極的に人と関わり、実践の中で努力されている様子に真剣さが伝わってきました。また、イベントを重ねるごとにどんどん動きがよくなったことが印象的です。これからも自ら企画して現場に立ち続け、経験を積んで欲しいと願っています。

多様な人、多様な価値観の中で信頼関係を築いていく。

私が所属していた環境都市推進グループは、いわば市の環境活動全般の舵取り役。市民、企業、大学やNPOなど様々な立場の方との協働で、「環境活動」をテーマに、地域づくりを進めるプロジェクトに携わってきました。地域に根ざした持続可能な社会の実現には、市民を始めとする様々な立場の



常に相手の立場や気持ちを尊重。様々な意見を取り入れて、環境に配慮したまちづくりを進めています。

人が、共に考え、行動することが必要です。地域づくりのプロセスを共有し、想いを分かち合うことができれば、活動はさらに発展していくからです。協働を進める上で、私が心がけているのは、すべての方々と信頼関係を築くこと。幅広い視野から適切な状況判断を行い、地域づくりに関わる方全員が活躍できる場を共に創り上げていくことこそ、私の最も大切な仕事だと考えています。学生の皆さんは、現代GPプログラムを通して、多様な人、多様な価値観との出会いをぜひ大切にしてください。その出会いを学びとして受けとめ、将来の地域社会を創るリーダーとして活躍されることを期待しています。

現代GPの運営で連携していただいた
社団法人神戸女学院
教育文化振興めぐみ会
会長



社会で輝くには？

- 祈り
- 信頼
- 感謝

いしわり はつこ
石割 初子さん

神戸女学院大学文学部英文学科卒業。1997年度より2003、2004年を除く10年間、めぐみ会理事を務める。2006年度より現職と学校法人神戸女学院理事を兼任。

社会で活躍中の女学院OG
ダイキン工業株式会社
人事本部
グローバル人材グループ所属



社会で輝くには？

- いつも笑顔でいる
- 「できない」の前に「どうすればできるか」を考える
- 常に好奇心を持ち続ける

うめもと じゅんこ
梅本 順子さん

2005年神戸女学院大学卒業後、ダイキン工業株式会社に入社。以来、現在まで4年間人事本部に所属。学生時代はラクロス部で活動。

他者の考えにじっくり耳を傾け、最適な判断を自分で行う。

私が仕事をする上で大切にしているのは、複数の意見に真摯に耳を傾けて、取るべき方向を判断すること。会長を務めるめぐみ会は、約3万人にも及ぶ卒業生の会員を抱え、社会と母校への貢献を念頭に置いた活動をしています。全世界で活躍する会員の思いをできるだけ汲み上げつつ、公益法人としての使命を果たすことこそ、会長の仕事だと考えます。

力・技術を身につけようとする向上心も重要です。現代GPの授業では、西宮市やNPO法人などの支援をいただき、互いに協力しながら建学の精神「愛神愛隣」をぜひ実現してください。また、授業を通して、みなさんの先輩たちは神戸女学院で何を与えられて卒業していかれたのか、「見えるものではなく見えないものに目を注ぐ」ことを学び、歩んでください。と思います。



130年以上の長い歴史の中で、先輩方から受け継がれてきた伝統をこれからも大切に守り伝えたいと思います。

入社以来、人事本部に所属し、社員教育、社内報の制作、研修所建設プロジェクトへの参画、女子プロゴルフトーナメント「ダイキンオーキッド」の企画等、様々な仕事に携わってきました。仕事では様々な方と知り合い、楽しいこともありますが、おもしろくないことや辛いこと、思い通りにいかないことももちろんあります。しかし、そんなときこそ「明るく、前向きに!」。後ろ向きでいても、何一つ前には進みません。常に笑顔で心かけることで、自分も周りの人の気持ちも明るくなり、自然とポジティブに。笑顔には不思議なパワーがあると実感しています。また、学生のとき以上に意識しているのが「時間管理」。約束や期限を守ることはもちろん、社会ではスピードも要求されます。自分の都合ではなく、相手のペースに合わせて仕事をする必要性を

学生時代の経験を糧に、とにかく「明るく、前向きに!」



入社以来、制作を担当しているダイキンオーキッドの小冊子。沖縄での現地取材も行い、いつも刺激を感じます。

日々実感しています。私は、学生時代所属していたラクロス部の活動を通して、自分で考え行動することや、人との絆の大切さを学びました。皆さんもぜひ、それぞれのフィールドで人との関わりを通して学ぶ機会をつくり、心の財産を増やしていきましょう。何事もEnjoyです!



これからの総合実習の活動に向けて。

— 平成20年度の活動の成果と今後の課題 —

大学にとっても、学生にとっても初めての試みだった平成20年度。今後も社会的価値のあるものとして継続させるため、支援・参加して下さった方々とともにイベントを振り返り、成果と改善点、そして総合実習が今後目指すべき方向性を探ります。



座談会メンバー

久世 竜 KUSE Ryou
NPO 法人こども環境活動支援協会事務局 (LEAF)
…「親子でつくろうベジタブル!」「みんなでecoクッキング!」支援
高岡 素子 TAKAOKA Motoko
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科准教授
…「早めのメタボ予防大作戦!!」講師/「みんなでecoクッキング!」参加

二宮 礼子 NINOMIYA Reiko
西宮市在住
…「早めのメタボ予防大作戦!!」参加
森元 智子 MORIMOTO Tomoko
人間科学部 3年生
…「親子でつくろうベジタブル!」プロジェクトメンバー

笠松 彩 KASAMATSU Aya
人間科学部 3年生
…「早めのメタボ予防大作戦!!」プロジェクトメンバー
池本 成美 IKEMOTO Narumi
人間科学部 3年生
…「みんなでecoクッキング!」プロジェクトメンバー

「学生さんがするレクリエーションは明るく楽しくて、参考になったなあ」(久世)

学生・支援者・参加者の全員が体験した新たな出会い。

森元…総合実習は、すごくいい経験でした。喜びや不安など心も動くし、自分も行動しないといけないので、受け身ではいられなくて。

久世…ほんと、若いっていいなと思いました(笑)。大胆だったり、気持ちが向いていったときのエネルギーもすごく、ああおもしろいなあって。

池本…私は、本当に「出会い」の連続でした。仲間やNPO法人の方はもちろん、イベントで見た小学生同士の思いやりにとっても温かい気持ちになり、参加者から与えてもらうものも多かったです。

高岡…参加者の親にとっては、土日に無料で預かってくれるだけで大感激。それに、子どもがちょうど教科書で学んだことを、実際に体験学習ができたのも感謝しています。

笠松…私たちメタボ班は、市民の健康が地域活性化の基盤として一番大切じゃないか、という点に気づけたことが良かったです。健康について改めて考えさせられました。

二宮…メタボ予防のイベントに参加するまでは、食事の記録なんてしなかったのね。ちゃんとノートがあったから書いた

「女学院でイベントしてるからちょっと行ってみない?」ってなるといいね」(二宮)

地域活性化のためには継続性が必要。出会いの場としてイベントの開催を。

笠松…これからは、もっと持続的に発信していけたらいいと思います。次の学年にもつなげて、イベントが定期的に行われれば、参加者や支援先との交流も深まるので。単発だとどうしても地域活性化につながりにくいかと今回感じました。

高岡…大学ができる地域活性化って、何でしょうか?

二宮…私は、なんで大学がそこまでしているのか、不思議でした。今までこのような交流はなく、遠い存在だったのに。学生が社会で役立つことを身につけるためにしているのかと、思ったの。そのために協力するのは全然構わないですけど。

高岡…地域活性化じゃなくて、大学活性化ですね。

池本…私は両方だと思います。どう地域に関われるかという将来へ向けた練習でもあり、今この地域が抱えている問題も真剣に考えています。

高岡…社会貢献的な側面と、勉強させてもらってる側面があるという自覚が必要かもしれないね。
久世…それと、僕が皆さんと関わる動機の一つは、い



けど、なかったら書かないわ。学生さんが時々おказыのヒントも書いてくれていたからね。あと万歩計をつけて、あの期間はマメに歩いていました。

人数不足? 内容変更? あらぬ自信: 初体験でそれぞれ課題に直面。

高岡…メタボ班は広報を見直さないかね。参加者に知らせる手段を全然考えずに進んでいたの。

二宮…私もびっくりしたのよ、参加者が少なかったから。

笠松…イベント運営では、内容やどうしたら喜んでくれるかを考えていて、参加者を集めることには気が回らなかったです。

久世…参加者を集めるのは、スタートラインで一番苦労することかな。

森元…ベジタブル班は、参加者アンケートで稲刈り希望がたくさん出てきて、道を見失いました。いざ参加者さんに対面したら、元々の企画が満足度の高い方へ流れてしまってた。

二宮…参加者は1ヶ月に1回だけ集合?



ろんな問題がもう大学やNPOといった単体で解決できなくなっているということ。イベントは「出会いの場」だと思えます。地域に出て、人と出会う場をつくるのが、一番大事じゃないかなと思ってる支援しています。

二宮…どちらにせよ、「第2回」を開催して欲しいですね。大勢集まってもううことに意味があるし、「継続は力なり」だから。女学院バザーみたいに学校を開放し、また来年も募集することがわかってるように。

高岡…そうすることで、地域活性化にも繋がるでしょうね。

今回の座談会では、市民向けイベントの運営に専門スキルが必要なことを改めて認識。今後は学生がステューデントアシスタントとなり、ノウハウや課題を次の学年へ継承します。

また、世間では現代GPの認識が浅く、大学が地域活性化を担うことに疑問の声も。イベントには、教育の一環として練習の意味があるのも事実。答えは、継続的にイベントを開催し、地域社会と関わり続ける中で見つかりそうです。



雑草引きとかの苦労は教えられるなかったの? 森元…イベントの目的は「土に触れ合おう」と「野菜を育ててみよう」だったので、草むしりまでは手が回らなかったです。

久世…どのラインでイベントをやるのが難しいところですね。農業の全てを知って、参加者の生活の中にイベントが生きてきたら成功かな、と思いますよ。

池本…クッキング班は、イベント2週間前まで内容がスカスカでした。久世さんにタイムテーブルを見ていただいたら、「これで本当にできるって思ってた?」って。

高岡…まだ失敗を知らなかったからね。池本…成功させる意気込みはかなりあったんですけど。1回しかイベントがないので、アドバイスしていただけて本当によかったです。



ただ、経験してわかることもありますよね。クッキング班だけに言ったのは、イベントが1回きりで失敗できなかったから。今知ることが大事であれば伝えるし、学生さんが自分たちで問題解決しようとするのが大事だったから見守る。関わる方にも迷いはありますね。
高岡…わかります。きっと、私達も初めてで迷ってるんですね。

「運営のやり方を勉強する機会をつくるのは今後の大きなポイントですね」(森元)

